

窓辺

いけの
池野
ふみあき
文昭

シリコンバレー

2001年から、米国カリフォルニア州シリコンバレーに住んでいる。それまでは浜松市北部の佐久間町の病院で、医師として地域



医療に従事していた。何故、シリコンバレーに移り住んだのかというと、スタンフォード大に留学したからである。

浜松の山間地から、突然、世界最先端のシリコンバレーに移り住んだ時のカルチャーショックは、今でも鮮明に覚えている。

自分の英語が全く通じないショック。受験で鍛えたあの英語は何だったのか？物価があまりにも高価である。月22万円もする古い2ベッドルームの木造アパートと、貯金が急速に減っていく恐怖。

そして何より、研究など一度もしたことがない田舎医者が、世界中から集まったスタンフォード大の優秀な研究者の中で、全く相手にもされない屈辱感と寂しさ。

こんないばらの道の始まりであったが、たった一つ、私を魅了してやまないシリ

コンバレーの特徴がある。それは「何でもまずは、やってみる」「そして「やりながら考える」という姿勢である。たとえ失敗しても、その経験を生かし、再び挑戦する。シリコンバレーには、本気で世界を変えようとしている多くの起業家たちが集まっている。多くの人が新しい事に挑戦している。

その文化は、今でも私の心をつかんで離さない。しかし、それはまさに、自分が生まれ育った浜松の文化「やらまいか精神」そのものでもあった。

渡米から17年たった今も、シリコンバレーで新たな挑戦を楽しんでいる自分がいる。

（スタンフォード大
主任研究員、医師）